

X 学校教育に係る各種様式の作成例

①随時訪問に係る派遣要請書

文 書 番 号
令和〇年〇月〇日

下北教育事務所長 殿

〇〇〇学校
校長 〇 〇 〇 〇
(公印省略)

随時訪問に係る派遣要請書

このことについて、下記のとおり要請いたします。

記

- 1 要請期日 令和〇年〇月〇日 (〇)
※各学校に配付される「令和8年度教育課月別動向予定」を参考に、主任指導主事と調整した期日を御記入ください。
- 2 要請指導主事 〇〇 〇〇指導主事
- 3 要請内容
 - (1) 授業等の概要【教科・領域名、学年、授業者など】
 - 例1 国語科、〇年〇組 授業者 〇〇 〇〇
 - 例2 不登校対策の講義・演習 (60分)
 - (2) 依頼内容【指導事項、質問内容など】
 - 例1 授業参観、全体協議における指導・助言 (20分)
 - 例2 参観日における保護者、教員への説明
 - (3) 日程の概略
 - 例 来校時刻 〇 : 〇〇
 - 授業参観 〇 : 〇〇 ~ 〇 : 〇〇 (〇年〇組教室)
 - 研究協議・助言 〇 : 〇〇 ~ 〇 : 〇〇 (会議室)
- 4 その他 ※連絡事項などありましたら御記入ください。

②学習指導案例

第○学年 ○○科学習指導案例（細案）

日 時 令和○年○月○日（○）○校時
対 象 ○年○組 ○名
指導者 ○○ ○○

1 単元（題材）名 「○○○○○○○○○○」（本時○／○）

2 単元（題材）について

（1）教材観

単元（題材）の学習内容をどのように捉えているのか、単元（題材）設定の理由を記述する。
・学習指導要領の目標や内容に基づいた教材の解釈と指導内容の具体
・学習内容の系統性（前後する学年の学習内容との関わり） など

（2）児童生徒観

単元（題材）に関する児童生徒の実態について記述する。
・本単元の学習に関連した観点から集団（学級、習熟度別等）の学習状況
・学習内容に関する既習経験、興味・関心及び思考傾向
・各種テスト、児童生徒アンケートの分析をした内容 など

（3）指導観

単元（題材）の学習内容について、児童生徒の実態を踏まえ、どのように指導するのかを記述する。
・単元全体における指導上の工夫
・予想される児童生徒のつまずきへの対策や能力及び適性などへの配慮
・本時における児童生徒の予想されるつまずきとその対策 など

3 単元（題材）指導計画

（1）単元（題材）の目標

・学習指導要領の目標や内容、学習指導要領解説等を踏まえて記述する。
・児童生徒の実態、前単元（題材）までの学習状況等を踏まえて記述する。

（2）単元（題材）の評価規準

単元（題材）の目標に応じて観点ごとに単元の評価規準を作成する。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<知識>……………している。	……………している。	……………しようとしている。
<技能>……………している。	各教科等の「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」（国立教育政策研究所(R2)）を参考とする。	

(3) 指導と評価の計画

「指導と評価の計画」の基本的な様式は、各教科等において異なるため、作成する際は各教科等の「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」(R2 国立教育政策研究所)を参考とする。

時	ねらい・学習活動	評価規準 (評価方法)		
		知・技	思・判・表	態度
1				
2				
3				
4				

4 本時の指導

(1) ねらい

単元(題材)の目標から導いた本時のねらいであり、学習評価の観点を考慮しながら指導の意図を記述する。

(2) 学習過程

「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業づくりのためには、問題解決的な学習を重視した指導方法の工夫が重要になります。例えば、児童生徒にとって必然性のある課題を設定することや、児童生徒に自身の考えをもたせる工夫をするなど、本時のねらいを達成するために、児童生徒がどのように活動し、どのような指導の手立てをとるのかを明らかにすることが大切です。※問題解決的な学習を重視した指導方法の工夫については、p10「授業の充実 実践事項2(1)」を参照

段階	学習活動 (○主な発問・指示)	予想される児童生徒の反応	・指導上の留意点 ※評価
導入 ○分	学習課題		
展開 ○分	<p>学習過程には様々な項目や形式があるため、ここでは一般的なものを例示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 段階…導入・展開・終末(整理)など展開の過程を区分して記述する。 ・ 学習活動…学習の流れが分かるように、学習課題、まとめ、学習形態などを記述する。その際、教師の発問や指示も併せて記述する。 ・ 予想される児童生徒の反応…学習の流れに沿って、予想される児童生徒の反応を具体的に記述する。 ・ 指導上の留意点…予想されるつまずき(評価規準に達しないことが予想される児童生徒)への手立てなど配慮事項を記述する。 ・ 評価…評価場面を設定し、評価の観点や評価方法などを記述する。 		

終 末 ○ 分			
------------------	--	--	--

(3) 評価

児童生徒の学習状況を把握する視点であり、本時のねらいがおおむね達成された児童生徒の姿について記述する。また、指導と評価の計画に沿って、1観点、多くて2観点到しぼって記述する。

- ・単元（題材）の評価規準との整合性に留意してください。
- ・「おおむね満足できる」状況（B）を具体的に想定し、授業で適切に見取り、授業改善に生かすようにしてください。

〈参考〉「おおむね満足できる」状況（B）の具体的な設定例
※「単元の評価規準」との関連に留意してください。

小学校第5学年国語 「読書に関する情報を読んで活用しよう」

（参考）単元の評価規準：文章の構成について理解している。【知識・技能】

本時の評価 新聞記事の「逆三角形の構成」について理解している。

（知識・技能 ワークシートから）

B：「見出し」「リード文」「本文」の構成を理解し、図に正しく書いている。

小学校第4学年算数 「変わりかた」

（参考）単元の評価規準：伴って変わる2つの数量を見いだして、それらの関係に着目し、簡潔に、また一般的に表現したり、式の意味を読み取ったりしている。また、表や式を用いて変化や対応の特徴について考察している。【思考・判断・表現】

本時の評価 B：伴って変わる2つの数量の関係に着目し、表や式を用いて変化や対応の特徴について考察して問題解決している。

（思考・判断・表現 適用問題から）

中学校第3学年保健体育 「G ダンス」

（参考）単元の評価規準：一人一人の違いに応じた表現や交流、発表の仕方などを大切にしようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

本時の評価 B：共生の意義を理解し、自己と他者の違いを受け入れようとしている。

（主体的に学習に取り組む態度 観察から）

(4) 板書計画

学習の過程と内容が分かるように構造化して示す。

第〇学年 〇〇科学習指導案例（略案）

計画訪問時の留意点

- ・体裁は、A4用紙1～2枚程度の横書きが望ましい。
- ・校内研修との関連がある授業は、それに関わる提案・工夫等を示すのが望ましい。
- ・児童生徒の実態について、簡潔に記述する。

日時 令和〇年〇月〇日（〇） 〇校時

対象 〇年〇組 〇名

指導者 〇〇 〇〇

1 単元（題材）名 「〇〇〇〇〇〇〇〇〇」（本時〇／〇）

2 単元（題材）について

学習指導要領の目標や内容に基づいて、単元（題材）指導計画における本時の位置付けを簡潔に記述する。また、本時の教材観・指導観を簡潔に記述する。

3 児童生徒について

予想される児童生徒のつまずきと、それに対する手立て、指導観を中心に記述する。

4 本時の指導

（1）ねらい

単元（題材）の目標から導いた本時のねらいであり、学習評価の観点を考慮しながら指導の意図を記述する。

（2）学習過程

「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業づくりのためには、問題解決的な学習を重視した指導方法の工夫が重要になります。例えば、児童生徒にとって必然性のある課題を設定することや、児童生徒に自身の考えをもたせる工夫をするなど、本時のねらいを達成するために、児童生徒がどのように活動し、どのような指導の手立てをとるのかを明らかにすることが大切です。
 ※問題解決的な学習を重視した指導方法の工夫については、p10「授業の充実 実践事項2（1）」を参照

段階	学習活動 (〇主な発問・指示)	予想される児童生徒の反応	・指導上の留意点 ※評価
導入 〇分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 学習課題 </div>		
展開 〇分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 学習過程には様々な項目や形式があるため、ここでは一般的なものを例示する。 ・ 段 階…導入・展開・終末（整理）など展開の過程を区分して記述する。 ・ 学 習 活 動…学習の流れが分かるように、学習課題、まとめ、学習形態などを記述する。 その際、教師の発問や指示も併せて記述する。 ・ 予想される児童生徒の反応…学習の流れに沿って、予想される児童生徒の反応を具体的に記述する。 ・ 指導上の留意点…予想されるつまずき（評価規準に達しないことが予想される児童生徒）への手立てなど配慮事項を記述する。 ・ 評 価…評価場面を設定し、評価の観点や評価方法などを記述する。 </div>		

終 末 ○ 分			
------------------	--	--	--

(3) 評価

児童生徒の学習状況を把握する視点であり、本時のねらいがおおむね達成された児童生徒の姿について記述する。また、指導と評価の計画に沿って、1観点、多くて2観点到しぼって記述する。

- ・単元（題材）の評価規準との整合性に留意してください。
- ・「おおむね満足できる」状況（B）を具体的に想定し、授業で適切に見取り、授業改善に生かすようにしてください。

〈参考〉「おおむね満足できる」状況（B）の具体的な設定例
※「単元の評価規準」との関連に留意してください。

小学校第5学年国語 「読書に関する情報を読んで活用しよう」

（参考）単元の評価規準：文章の構成について理解している。【知識・技能】

本時の評価 新聞記事の「逆三角形の構成」について理解している。

（知識・技能 ワークシートから）

B：「見出し」「リード文」「本文」の構成を理解し、図に正しく書いている。

小学校第4学年算数 「変わりかた」

（参考）単元の評価規準：伴って変わる2つの数量を見いだして、それらの関係に着目し、簡潔に、また一般的に表現したり、式の意味を読み取ったりしている。また、表や式を用いて変化や対応の特徴について考察している。【思考・判断・表現】

本時の評価 B：伴って変わる2つの数量の関係に着目し、表や式を用いて変化や対応の特徴について考察して問題解決している。

（思考・判断・表現 適用問題から）

中学校第3学年保健体育 「G ダンス」

（参考）単元の評価規準：一人一人の違いに応じた表現や交流、発表の仕方などを大切にしようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

本時の評価 B：共生の意義を理解し、自己と他者の違いを受け入れようとしている。

（主体的に学習に取り組む態度 観察から）

(4) 板書計画

学習の過程と内容が分かるように構造化して示す。

第○学年 道徳科学習指導案例（細案）

日 時 令和○年○月○日（○）○校時
 対 象 ○年○組○名
 指導者 ○○ ○○

1 主題名 「(例) まわりをよく見て考えるきまり」 【内容項目C 規則の尊重】

本時で取り扱う内容項目の中から、どのような道徳的価値をねらいとするのか端的に表したもの（原則として、自校の年間指導計画における主題名）を記述する。なお、関連する内容項目を併記する。

2 ねらいと教材

きまりの意義を理解し、みんなのことやまわりの状況を考えて、きまりを守ろうとする○○を育てる。

「雨のバスていりゅう所で」（小学道徳 生きる力4 日本文教出版）

道徳科の内容項目を基に、ねらいとする道徳的価値や道徳性の様相（道徳的判断力、心情、実践意欲と態度）を端的に表したものを記述する。また、授業において用いる教科用図書やその他の教材の題名を記述する。なお、その出典等を併記する。

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について（価値観）

ねらいや内容項目についての教師の捉え方、指導の意図を明確に記述する。

(2) 児童生徒について（児童生徒観）

本主題に関連する児童生徒の実態やこれまでの学習状況及び教師の願いを記述する。

(3) 教材について（教材観・指導観）

使用する教材の特質とそれを生かす具体的な活用方法や指導の手立て等を記述する。

4 学習指導過程

教師の指導と児童生徒の学習の手順を示すものである。一般的には、学習指導過程を導入、展開、終末の各段階に区分し、児童生徒の学習活動と主な発問、予想される児童生徒の反応、指導上の留意点、評価の視点などを指導の流れに即して記述する。

学習指導過程は、教師の指導の意図や児童生徒の実態、教材の効果的な活用などに合わせて弾力的に扱うなどの工夫をします。

段階	学習活動と主な発問 (○発問 ◎中心発問)	予想される児童生徒の反応	指導上の留意点 ☆評価の視点
導入 ○分	本時の主題に関わる問題意識をもたせたり、教材の内容に興味や関心をもたせたりするようにする。		

展 開 ○ 分	児童生徒の実態と教材の特質を押さえた発問などをしながら進めていくようにする。
終 末 ○ 分	学習を通して考えたことや新たに分かったことを確かめたり、学んだことを更に深く心にとどめたり、これからへの思いや課題について考えたりする活動などを取り入れるようにする。

5 学習状況（学びの姿）を見取る視点

児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子について、学習活動に着目した上で、何を、どのように見取るのかを記述する。

- 道徳科の評価は、ねらいを達成できたかどうかを見取るものではないため、「～できたか」という表記はしない。「こんなふう考えていたか」「こんなふう考えようとしたか」のようにするのが適している。
- 1単位時間の授業での学習状況（学びの姿）を蓄積し、大きくくりなまとまりを踏まえた評価や児童生徒がいか成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価につなげるものとする。

6 その他

他の教育活動などとの関連、教材分析、板書計画など、必要な事柄を記述する。

<参考> 「4 学習指導過程」における指導方法の工夫（例）

児童生徒が問題意識をもち、主体的に考え、話し合うことができるよう、ねらい、児童生徒の実態や発達の段階、教材や学習指導過程などに応じて最も適切な指導方法を選択し、指導の工夫をします。

教材の提示 読み物教材を提示する際、紙芝居の形で提示したり、劇のように提示したり、音声や音楽の効果を生かしたりする。その際、児童生徒の想像を膨らませ、思考を深めるために精選した情報の提示に留意する。

発問 教師の指導の意図に基づいたねらいに迫る中心発問と、中心発問を深めていくための問い返しや揺さぶりの発問を工夫する。その際、考える必然性や切実感のある発問、自由な思考を促す発問、多面的・多角的に考えたりする発問などを心掛ける。

話し合い 考えを出し合う、まとめる、比較するなどの目的に応じて、効果的に話し合いが行われるよう工夫する。

書く活動 必要な時間を確保し、考えを深めたり、整理したりできるようにする。また、ノートなどを活用することで、成長の記録としての活用や評価に生かすなどの工夫をする。

動作化や役割演技などの表現活動

特定の役割を与えて即興的に演技する役割演技の工夫、動きや言葉を模倣したり、せりふのまねをしたりして理解を深める動作化の工夫、音楽、所作、その場に応じた身のこなし、表情などで自分の考えを表現する工夫を試みる。

板書 思考の流れや順序を示すような順接的な板書だけでなく、対比的、構造的に示したり、中心部分を浮き立たせたりするなどの工夫をする。

説話 教師の体験談や願いなどを話すことにより、児童生徒がねらいの根底にある道徳的価値をより身近に、また主体的に考えられるようにする。

ICTの活用 道徳科の目標に示されている学習活動に着目し、より効果的に行われるための手段としてICTを活用する。

第〇学年 学級活動（１）指導案例（細案）

「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 小学校（中学校）特別活動」を参照し、「1 議題」「5 本時について」は、A案及びB案の二つの例を示します。

日時 令和〇年〇月〇日（〇） 〇校時
対象 〇年〇組 〇名
指導者 〇〇 〇〇

- 1 議題 A案「(例) がんばったね集会をしよう」 B案「(例) よりよい学級生活をつくろう」
学級活動（１）A案「ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決」
B案「ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決」

議題及び「学級活動（１）学級や学校における生活づくりへの参画」の内容を記述する。

【小学校及び中学校】

- ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決
- イ 学級内の組織づくりや役割の自覚
- ウ 学校における多様な集団の生活の向上

2 議題について

（１）児童生徒の実態

児童生徒の学級生活や学級活動における実態などを記述する。

（２）議題選定の理由

議題が設定された背景や教師の指導観などを記述する。

3 評価規準

各学校で定めた評価の観点に基づき設定する。議題ごとに設定するのではなく、内容のまとまりごとに評価できるように設定する。

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
例：～理解している。 ～身に付けている。	例：～見いだしている。 ～実践している。	例：～図ろうとしている。 ～取り組もうとしている。

4 指導と評価の計画

事前の指導・事後の指導を含む学習過程を工夫します。その際、児童生徒が見いだした課題について、意見の違いや多様な考えを認め合い、折り合いをつけ「合意形成」したことを実践し、振り返る活動を取り入れることが大切です。

過程	時間	児童生徒の活動	指導上の留意点	○目指す児童生徒の姿 【観点】〈評価方法〉
事前の活動	「事前の活動」は、児童生徒の活動（アンケートやノート等の記入）や教師の事前準備等について記述する。			
	○月○日 () 休み時間	・提案ポストの議題案を確認し、選定する。 (計画委員会) ※1	・議題選びの視点を念頭において選定することを指導する。	○「がんばったね集会」への見通しをもち、意欲的に取り組もうとしている。 【主体的態度】 (学級会ノート) ○友達のがんばりを認め合うことができる集会の内容を学級会ノートに書いている。 【思考・判断・表現】 (観察・学級会ノート)
○月○日 () 帰りの会	・議題を決定する。 (学級全員)	・計画委員会で選定した議題案をもとに、学級全員で決定する。		
本時	○月○日 () ○校時	・話し合い活動	・他者と協働して取り組むことの大切さを理解し、合意形成の手順や活動の方法を身に付けるようにする。	○多様な意見のよさを生かして合意形成を図り、信頼し支え合って実践している。 【思考・判断・表現】 (発言・観察)
事後の活動	「事後の活動」は、児童生徒の活動や教師の支援について記述する。			
	○月○日 ()～ ○月○日 () 休み時間等	・係ごとに計画を立てて、協力して準備をする。 ・帰りの会などで係ごとに経過報告を行ったり、お知らせを伝えたりする。	・係は必ず複数名で担当し、全員で協力して活動できるようにする。 ・準備の進捗状況を途中で確認し活動意欲の継続化を図る。	○「がんばったね集会」のめあてを意識して、友達と協力して取り組んでいる。 【思考・判断・表現】 (学級会ノート)
	○月○日 () ○校時	・「がんばったね集会」を行う。	・集会のねらいを確認し、協力して実践できるようにする。 ・協力したり工夫して活動したりしている児童を称賛する。	
	○月○日 () ○校時	・一連の活動を振り返る。	・自分の態度を振り返るとともにめあてに基づいた振り返りを行い、自分の役割を果たすことや友達のよかったところについても認められるように助言する。	○頑張ったね集会の成果と課題を振り返り、自他のがんばりに気付いたり、次の活動に生かそうとしたりしている。 【主体的態度】 (学級会ノート・観察)
動	「目指す児童生徒の姿」には「内容のまとまりごとの評価規準」に即して、事前の活動・本時・事後の活動の一連の活動について、評価規準を具体的に記述する。その際、事前の活動・本時・事後の活動の中に、全ての評価の観点を適切に設定する。			

※1 計画委員会

話し合いに必要な一連の活動計画を立て運営するための組織です。司会、黒板記録、ノート記録等で組織されます。学級活動(1)は、児童生徒の自発的・自治的な実践活動が大切であることから、計画委員会による活動が重要になります。

一般的には、司会と記録(黒板・ノート)を「司会グループ」、それに提案者と教師を加えて「計画委員会」を組織します。なお、「計画委員会」のほか、「学級活動委員会」「学級委員会」等として組織する場合もあります。

5 本時について

A案 話し合いの順序を分かりやすく示した様式

(1) 本時のねらい（目指す児童生徒の姿）

「内容のまとまりごととの評価規準」に即して、本時で目指す児童生徒の姿を具体的に示す。各学校で定めた評価の観点に基づき設定する。

(例) 1年間の互いのがんばりを認め合う楽しい「がんばったね集会」にするために、集会の内容を考えることができるようにする。

(2) 本時の展開

主な活動内容	指導上の留意点	○目指す児童生徒の姿 【観点】 〈評価方法〉
<p>主な活動内容 本時の活動の流れが分かるように記述する。</p> <p>指導上の留意点 話し合い活動に沿って、指導・支援の意図、指導方法の工夫等について留意すべきことを具体的に記述する。 「～する児童生徒に対しては、～について～することで～できるようにする」等、児童生徒一人一人に応じた具体的な指導・支援が分かるように記述する。</p> <p>目指す児童生徒の姿 本時のねらい（目指す児童生徒の姿）と整合した評価規準を具体的に記述する。「十分満足できる活動の状況」について、抽象的な文言ではなく、具体的に記述する。また、評価の場面は1、2箇所に絞る。</p>		
<p>1 はじめの言葉</p> <p>2 計画委員の自己紹介</p> <p>3 議題の確認</p> <p>4 提案理由や話し合いのめあての確認</p> <p>5 決まっていることの確認</p> <p>6 話し合い 話し合うこと① 「何をするか。」</p> <p>話し合うこと② 「がんばりを認め合う工夫はどうするか。」</p> <p>話し合うこと③ 「どんな係が必要か。」</p> <p>7 決まったことの発表</p> <p>8 話し合いの振り返り</p> <p>9 先生からの話</p> <p>10 おわりの言葉</p>	<p>・めあてをもって自分の役割に臨めるようにする。</p> <p>・提案者の思いや願いを全員が理解し、学級全員の問題であることを確認する。</p> <p>話し合いのめあて 「がんばったことを振り返ることができる集会の内容と工夫を考えよう。」 ・決まっていることを確認する。 ① 日時…○月○日○時間目 ② 場所…教室 ③ ゲームで1つ、それ以外で1つ</p> <p>・司会が進行に困った時は方向性を示唆し、児童生徒の合意形成を方向付けるような助言はしない。</p> <p>・自治的活動の範囲を超えそうな場合は、適切に助言する。</p> <p>・必要に応じて、自分の意見に固執せず、納得したうえで考えを変えるなど、折り合いをつけて合意形成を図ることの大切さについて助言する。</p> <p>・これまでの集会の経験をもとに必要な係については事前に短冊を用意しておき、今回新たに必要な係について話し合う。</p> <p>・よかった点や課題について自己評価し、友達のよかった点などについて相互評価できるように助言する。</p> <p>・先生からの話（終末の助言）では、「①前回の話し合いと比べてよかった点、合意形成したことへの価値付けや称賛、②今後の課題、③計画委員へのねぎらい、④今後の見通しや実践に向けての意欲付け等」について簡潔に述べる。</p> <p>・提案理由を意識した発言や建設的な発言、意欲的に参加していた児童を称賛する。</p> <p>・実践への見通しをもち、意欲が高まるように言葉掛けを行う。</p>	<p>○これまでの集会活動の経験を生かしたり、友達の意見のよさを生かしたりして、「がんばったね集会」の内容や工夫について考えている。</p> <p>○みんなががんばったことを認め合う内容はどれがよいか根拠を明確にしながら発言したり、友達の意見と比べて聞いたりしている。</p> <p>【思考・判断・表現】 〈発言・観察〉</p>

B案 話し合いの流れを児童生徒主体で段階ごとに示した様式

(1) 本時のねらい (目指す児童生徒の姿)

「内容のまとめりごとの評価規準」に即して、本時で目指す児童生徒の姿を具体的に示す。各学校で定めた評価の観点に基づき設定する。

- (例) ・互いの意見や可能性を生かし合った話し合い活動の仕方を身に付けている。
 ・異なる意見から共通点を見だし合意形成に向け (個人として) 取り組んでいる。

(2) 本時の展開

段階	児童生徒の活動	○目指す児童生徒の姿 【観点】〈評価方法〉 ※指導上の留意点
導入 ○分	<p>児童生徒の活動 本時の活動の流れが分かるよう、児童生徒の立場で具体的に記述する。活動の具体、指導上の留意点、目指す児童生徒の姿の記入についてはA案を参照する。</p>	
展開 ○分	<p>1 ワークシート「よりよい学級生活をつくろう」を活用して自分が宿題で考えてきた学級目標を確認する。</p> <p>2 「よりよい学級生活をつくろう」を活用してグループで意見を出し合い、まとめる。 ・自分が考えた学級目標を発表する。 ・発表している人の考えを聞き、ポイントをメモする。 ・グループとしての学級目標案を考える。</p> <p>3 全員で学級目標を決める。 ・各班で決めた学級目標案を発表する。 ・「よりよい学級生活をつくろう」を活用して、発表している人の考えを聞き、ポイントをメモする。 ・学級委員が調整役を果たしながら合意形成に向けて練り合う。</p> <p>・折り合いを付け、学級目標を全員で合意形成する。 ・合意形成した学級目標を確認する。</p>	<p>○互いの意見や可能性を生かし合った話し合い活動の仕方を身に付けている。 【知識・技能】 〈ワークシート〉</p> <p>○異なる意見から共通点を見だし合意形成に向け (個人として) 取り組んでいる。 【思考・判断・表現】 〈ワークシート、観察〉</p>
終末 ○分	<p>4 実践に向けて ・担任からの合意形成した過程や全員で決めた学級目標に対する思いを聞く。</p> <p>5 学級目標を実現するために (予告) 「次の活動は、学級目標を踏まえて個人の1学期の目標を決めてもらいます。」 (担任) ・自己評価表を切り離し、担任に提出する。</p>	<p>※児童生徒の思いを大切にしながら、学校・学級として育てたい資質・能力についてもコメントする。</p>

6 板書計画

第〇学年 学級活動（２）指導案例（細案）

「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 小学校特別活動」を参照し、学級活動（２）の例を示します。

日時 令和〇年〇月〇日（〇） 〇校時
対象 〇年〇組 〇名
指導者 〇〇 〇〇

1 題材（２）「（例）見直そう ゲームの時間」 学級活動（２）「ア 基本的な生活習慣の形成」

題材及び「学級活動（２）日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」の内容を記述する。

- 【小学校】
- ア 基本的な生活習慣の形成
 - イ よりよい人間関係の形成
 - ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成
 - エ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成
- 【中学校】
- ア 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
 - イ 男女相互の理解と協力
 - ウ 思春期の不安や悩みの解決、性的な発達への対応
 - エ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成
 - オ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成

2 題材について

（１）児童生徒の実態

児童生徒の学級生活や学級活動における実態などを記述する。

（２）題材選定の理由

題材が設定された背景や教師の指導観などを記述する。

3 評価規準

各学校で定めた評価の観点に基づき設定する。題材ごとに設定するのではなく、内容のまとまりごとに評価できるように設定する。

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
例：～理解している。 ～身に付けている。	例：～見いだしている。 ～実践している。	例：～図ろうとしている。 ～取り組もうとしている。

4 指導と評価の計画

事前の指導、事後の指導を含む学習過程を工夫します。その際、日常生活における問題の原因や対処の方法についての話合いを生かして、自己の課題の解決方法等を「意思決定」し、決めたことに粘り強く、自主的、実践的に取り組めるようにすることが大切です。

過程	時間	児童生徒の活動	指導上の留意点	○目指す児童生徒の姿 【観点】〈評価方法〉
事前の指導	「事前の指導」は、児童生徒の活動（アンケートやノート等の記入）や教師の事前準備等について記述する。			
	○月○日 () 帰りの会	・アンケートに記入する。	・ゲームに費やす時間やゲームのやりすぎで困った経験などを調査し、表やグラフにまとめる。 ・これまでの生活を振り返る時間を設け、課題への意識を高められるようにする。	○ゲームに関する自己の生活を進んで振り返ろうとしている。 【主体的態度】 〈アンケート〉
本時	○月○日 () 学級活動	・アンケートの結果からゲームのやり過ぎによる問題点を考え、改善するために話合ったことを参考にして、ゲームの約束についての個人目標を決める。	・自分の経験を想起したり、友人達の工夫を聞いたりして、具体的な方法を考えられるようにする。 ・話合いの結果を参考に、自分の課題に合った具体的な目標になるように助言する。	○どうしたらゲームのやり過ぎを改善できるのかを考えている。 【思考・判断・表現】 〈観察〉 ○自分の課題にあった具体的な目標を決めている。 【思考・判断・表現】 〈めあてカード〉
事後の指導	「事後の指導」は、児童生徒の活動や教師の支援について記述する。			
	○月中 帰りの会	・自分の立てた目標や取組について振り返る。 ・友達同士で取組を確認し合う。	・事後に振り返る機会を設定し、実践化に向けて継続した取組になるように助言する。 ・帰りの会などを利用して、友達同士で取組を確認し合う場を設け、お互いのがんばりを励まし合うことにより、実践の継続を図るようにする。	○今後の生活におけるゲームの使い方への見通しをもち、自己の課題を改善しようとしている。 【主体的態度】 〈めあてカード〉
「目指す児童生徒の姿」には、「内容のまとめりごとの評価規準」に即して、事前の指導・本時・事後の指導の一連の活動について、評価規準を具体的に記述する。その際、事前の指導・本時・事後の指導の中で、全ての評価の観点を適切に設定する。				

5 本時について

(1) 本時のねらい（目指す児童生徒の姿）

「内容のまとめりごとの評価規準」に即して、本時で目指す児童生徒の姿を具体的に示す。各学校で定めた評価の観点に基づき設定する。

自他との関わりの中で、個人の課題を踏まえ、どのような意思決定ができるようにしたいのかなど指導のねらいを端的に書く。

(例) ゲームに集中しすぎてしまうことが学校生活に影響を与えることを知り、けじめをつけて利用することができるようにする。

(2) 本時の展開

段階	児童生徒の活動	指導上の留意点 ※資料等		○目指す児童生徒の姿 【観点】 〈評価方法〉
		T 1 (学級担任)	T 2 (養護教諭)	
導入 ○分	<p>児童生徒の活動 児童生徒の活動の流れが分かるよう、具体的に記述する。例えば、問題を把握したり、原因を考えたりする活動や、解決方法の工夫や個別の意思決定の場面等を、学習過程に位置付けて記述する。</p> <p>指導上の留意点 児童生徒の活動に沿って、指導・支援の意図、指導方法の工夫等について留意すべきことを具体的に記述する。 「～する児童生徒に対しては、～について～することで～できるようにする」等、児童生徒一人一人に応じた手立てを具体的な指導・支援が分かるように記述する。 児童生徒の活動と教師の指導・支援との関わりを対応させて書く。</p> <p>目指す児童生徒の姿 本時のねらい（目指す児童生徒の姿）と整合した評価規準を具体的に記述する。「十分満足できる活動の状況」について、抽象的な文言ではなく具体的に記述する。また、評価の場面は1、2箇所に絞る。</p>			
つかむ	<p>1 事前のアンケートを見て気付いたことを話し合う。</p> <p>2 ゲームのやり過ぎによる問題点を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ゲームに関する学級全体の課題を確認し、課題解決への必要感を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> スライドでアンケート結果を表示する。 ※集計結果 	
さぐる 展開 ○分	<p>3 ゲームをやめられない原因を考える。</p> <p>4 ゲームのやり過ぎによる体への影響を知る。</p> <p>5 ゲームのやり過ぎを改善する方法について話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分の意志の弱さでやめられない以外にも、ゲームには、集中させる仕組みがあることを知る。 ルールを守ってゲームを利用することの大切さを説明する。 やり過ぎないようにするにはどのようにすればよいか、自分の経験を想起したり、友達の工夫を聞いたりして、具体的な方法を考えられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 視力の低下や睡眠不足が学力にも影響することなどを説明する。 ※体への影響に関する掲示資料 	<p>○どうしたらゲームのやり過ぎを改善できるのかを考えている。 【思考・判断・表現】 (観察)</p>
見つける				
終末 ○分	<p>6 話し合ったことを参考にしてこれからの生活におけるゲームの約束について、個人目標（内容や方法など）を決める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 話合いの結果を参考に、自分の課題に合った具体的な目標になるよう、助言する。 数名に発表してもらい、目標の修正や実践の参考にできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 机間指導を行い必要に応じて具体性のある目標が立てられるよう助言する。 ※学習カード 	<p>○自分の課題に合った具体的な目標を決めている。 【思考・判断・表現】 (めあてカード)</p>
決める				

6 板書計画

第〇学年 学級活動（３）指導案例（細案）

「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 中学校特別活動」を参照し、学級活動（３）の例を示します。

日時 令和〇年〇月〇日（〇） 〇校時
対象 〇年〇組 〇名
指導者 〇〇 〇〇

1 題材（３）「（例）体験活動を学校生活につなごう」

学級活動（３）「イ 社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成」

題材及び「学級活動（３）一人一人のキャリア形成と自己実現」の内容を記述する。

【小学校】 ア 現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成

イ 社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解

ウ 主体的な学習態度の形成と学校図書館の活用

【中学校】 ア 社会生活、職業生活との接続を踏まえた主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用

イ 社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成

ウ 主体的な進路の選択と将来設計

2 題材について

（１）児童生徒の実態

児童生徒の学級生活や学級活動における実態などを記述する。

（２）題材選定の理由

題材が設定された背景や教師の指導観などを記述する。

3 評価規準

各学校で定めた評価の観点に基づき設定する。題材ごとに設定するのではなく、内容のまとまりごとに評価できるように設定する。

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
例：～理解している。 ～身に付けている。	例：～見いだしている。 ～実践している。	例：～図ろうとしている。 ～取り組もうとしている。

4 指導と評価の計画

事前、事後の活動を含む学習過程を工夫します。その際、日常生活における問題の原因や対処の方法についての話し合いを生かして、自己の課題の解決方法等を「意思決定」し、決めたことに粘り強く、自主的、実践的に取り組めるようにすることが大切です。

時間	ねらい・学習活動	○目指す児童生徒の姿		
		知識・技能	思考・判断・表現	自主的態度
学校行事 始業式後	「一年後のゴールを設定しよう」 ○ねらい ・学校教育目標（キャリア教育目標）、学年目標から自分のこの1年間の目標を設定する。 ○活動 ・「キャリア・パスポート」に1年間の目標を記入する。	学校や学年教育目標を踏まえ、個人目標の設定方法を身に付けている。	1年間でなりたい自分を表現している。	自主的に「キャリア・パスポート」を活用して自己の学びを見通し、振り返ろうとしている。
学級活動	「4ヶ月後のゴールを設定しよう」 ○ねらい ・前回立てた1年間の目標から、1学期の目標を設定する。 ○個人での活動 ・キャリア・パスポートに1学期の目標を記入する。 ・1学期の目標を掲示する。	自分の1年間の目標を踏まえ、1学期の個人目標の設定方法を身に付けている。	自分の1学期の目標を表現している。	1学期の目標と職場体験を関連付けようとしている。
学校行事	「自分を知ろう」 ○ねらい ・職業適性検査を通して自分の特性を知る。 ○活動 ・職業適性検査を受ける。 ・職業と適正の関係を知る。	検査の結果を参考にし、自分の適性や興味を理解している。		自分の適性や興味から職場体験活動への見通しをもとうとしている。
学校行事	「体験先の職場を選択しよう」 ○ねらい ・根拠をもって体験する職場を選択する。 ○活動 ・自分の適性や興味を確認する。 ・働く意義を確認する。	働く意義や自分が社会で果たしたい役割を理解している。	働く意義や自分が社会で果たすべき役割について考え、中学校における職場体験活動で何を学びたいのかを、根拠をもって説明している。	
本時	「体験活動を学校生活につなごう」 ○ねらい ・職場体験活動で学んだことをまとめ、今後の学校生活に生かす。 ○活動 ・職場体験レポートをまとめ、担当教員よりコメントをもらう。		職場体験活動で学んだことを自己と関わらせながら「キャリア・パスポート」に表現している。	担任からの助言や友人の声を参考に、職場体験活動の経験を学校生活に生かそうとしている。
学級活動	「1学期を振り返ろう」 ○ねらい ・職場体験活動を含め、1学期の活動を振り返る。 ○活動（個人） ・1学期の活動についてまとめ、2学期の目標を考える。		職場体験活動を含めた1学期を振り返り、表現している。	1学期を振り返ることにより、2学期への見通しをもとうとしている。

「目指す児童生徒の姿」には、「内容のまとめりごとの評価規準」に即して、事前・本時・事後の一連の活動について、評価規準を具体的に記述する。その際、事前・本時・事後の活動の中で、全ての評価の観点を適切に設定する。

※「4 指導と評価の計画」は、学級活動（2）の型でもよい。

5 本時について

(1) 本時のねらい (目指す児童生徒の姿)

「内容のまとまりごとの評価規準」に即して、本時で目指す児童生徒の姿を具体的に示す。各学校で定めた評価の観点に基づき設定する。
 自他との関わりの中で、個人の課題を踏まえ、どのような意思決定ができるようにしたいのかなど指導のねらいを端的に書く。

- (例) ・職場体験活動で学んだことを「キャリア・パスポート」に表現している。
 ・担任からの助言や友人の声を参考に、職場体験活動の経験を学校生活に生かそうとしている。

(2) 本時の展開

段階	児童生徒の活動	○目指す児童生徒の姿 【観点】 (評価方法) ※指導上の留意点
導入 ○分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">児童生徒の活動、目指す児童生徒の姿、指導上の留意点の記入については学級活動(2)を参照する。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">つかむ</div> <p>1 職場体験活動を振り返ろう ・職場体験活動のしおりや「キャリア・パスポート」を読み返す。</p>	
展開 ○分	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">職場体験活動を学校生活につなげよう。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">さぐる</div> <p>2 個人の活動 ・適性検査を基にした職場体験活動のねらいと、実際の職場体験活動の取組は合っていたかを振り返る。</p> <p>3 グループでの話し合い活動 ・実際の職場体験活動中に学んだこと、職場の方とのやりとりを振り返る。</p> <p>4 個人の活動 ・職場体験活動の感想をまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 10px;">見つける</div> <p>5 個人の活動 ・職場体験活動で学んだことが、今後の学校生活のどんな場面で生かせるかを考える。</p> <p>6 グループでの話し合い活動 ・応援シートを使いながら、職場体験活動で学んだことが、今後の学校生活のどんな場面で生かせるかを考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 10px;">決める</div> <p>7 個人の活動 ・担任のコメントや応援シートを参考に、これからの学校生活で伸ばしたい力を意思決定し、記録する。</p>	<p>※「キャリア・パスポート」を見直す。</p> <p>※「キャリア・パスポート」に記入する。 ○職場体験活動で学んだこと整理している。 【思考・判断・表現】 「キャリア・パスポート」 ※担任は机間指導しながら、自己理解、社会マナーやルール、進路決定や将来設計、役割等の視点からコメントする。</p> <p>※応援シートを使い、互いのよさやがんばりを相互評価する。</p> <p>○担任からの助言や友人の声を参考に、職場体験活動の経験を学校生活に生かそうとしている。 【主体的態度】 (「キャリア・パスポート」・観察) ※「キャリア・パスポート」に記入する。</p>
終末 ○分	<p>8 振り返り ・体験活動と学校生活のつながりと「キャリア・パスポート」を作成することの意義を確認する。</p>	<p>※具体的な場面(学校行事や進路選択)を挙げ、児童生徒がイメージしやすいようにする。</p>

6 板書計画

③校内研修計画

校内研修計画は以下の点に留意して作成します。

- (1) 学校の教育課題を明確にし、校長の方針の下、課題解決のために全教職員で取り組むことを共通理解する。
- (2) 学校の教育課題や教育目標、校長の学校経営方針と関連付けて、研究のねらいや児童生徒に身に付けさせたい資質・能力、目指す児童生徒像等を明確にし、具体的な方策を明記する。
- (3) PDCAサイクルに基づく校内研修になるよう、成果と課題を明確にする。

令和〇年度 校内研修計画（例）

〇〇〇立〇〇〇学校

1 研究主題

学校の教育課題、目指す児童生徒像を受けて、研究の目的（身に付けさせたい資質・能力、目指す児童生徒像等）を達成（育成）するための方法などを記述する。

例) 〇〇〇のための〇〇〇の工夫 (研究) (〇年次)

目的 方法

※副題を設定する場合は研究主題に「目的」、副題に「方法」などを記述することが望ましい。

- ・ 活用する力を育成するための学習指導方法の工夫 (3年次)

2 教科・領域

研究する教科・領域を記述する。

- 例) ・教科だけの場合 → 「全教科」「算数」「国語、算数」 など
 ・教科と領域を含む場合 → 「全教科、全領域」「生活、総合的な学習の時間」 など
 ・領域だけの場合 → 「全領域」「総合的な学習の時間、特別活動」 など

3 主題設定の理由

研究の指針、昨年度までの研究の成果や課題、児童生徒の実態、目指す児童生徒像との関連、研究主題に迫るための手立てなどを記述する。

例)

【研究の指針】

- ・学習指導要領
- ・文部科学省の方針
- ・青森県教育委員会の方針 など

「 」は文末例

「…が大切である。」
 「…が求められている。」

【昨年度までの研究の成果や課題】

- ・児童生徒の変容、現状、問題点 など

「…という成果が見られた。」
 「…が十分でなかった。」

【児童生徒の実態】

- ・各種調査等客観的なデータ
- ・調査結果の分析 など

「…という実態である。」
 「…という結果が明らかになった。」

【目指す児童生徒像との関連】

- ・学校の教育課題、教育目標
- ・児童生徒に身に付けさせたい資質・能力
- ・校長の学校経営方針 など

「…という課題が挙げられた。」
 「…する力を身に付けさせたい。」
 「…という学校経営方針を基に、…とした。」

【研究主題に迫るための手立て】

- ・具体的な解決方法 (研究内容、検証方法)、調査方法、方向性 など

「そこで、…ではないかと考える。」

【主題設定の理由の結論付け】

- ・上記の設定理由のまとめ

「…の考えから、…を主題として設定した。」

4 研究目標

研究の方向性やゴールを示すものとして、研究における手立てや身に付けさせたい資質・能力等を明確に記述する。

例) ○○○において、○○○のために、○○○が有効であることを実践から明らかにする。

場、内容 目的 方法

- ・ ○○○科において、活用する力を育てるために、既習を生かして問題解決する場面の工夫や習得と活用の場を明確にした単元構成の工夫が有効であることを実践から明らかにする。

5 研究仮説

校内研究の見通しや予測にあたるものとして、研究の手立て、身に付けさせたい資質・能力、児童生徒の変容の姿等を明確に記述する。

例) ○○○において、○○○することによって、○○○のような変容の姿が見られ、○○○になるであろう。

場、内容 方法 目的

- ・ ○○○科において、既習を生かして問題解決する場を工夫することによって、習得した知識及び技能を生かして考え、自分の言葉で互いに伝え合う姿が見られ、活用する力を育てることができるようになるであろう。
- ・ ○○○科において、習得と活用の場を明確にした単元の指導計画を工夫することによって、教師による適切な評価、支援ができるようになり、活用する力が育成されるだろう。

6 研究内容

目指す児童生徒像、研究主題、研究目標、研究仮説を踏まえて、具体的な取組を記述する。

例) ○○○における、○○○の工夫

方法・場 具体的な取組

- ・ 日常の授業における、既習の知識及び技能を生かして問題解決する場面の工夫
- ・ 単元において、知識及び技能を習得する場面と既習を生かして活用する場を明確にした単元の指導計画の工夫

研究主題、研究目標、研究仮説、研究内容の整合性を図ることが大切です。

7 研究方法

主たる研究の方法を記述する。

- 例)
- ・ 提案授業及び研究協議を通して仮説の検証を行う。
 - ・ 学年（ブロック、教科）ごとに研究計画を立て、授業実践を行う。
 - ・ 授業実践に基づく成果と課題を学期ごとに明らかにする。

学校の教育課題解決のために全教職員で取り組むことができるような研究方法を設定します。

8 検証方法

具体的な検証の仕方を記述する。

- 例)
- ・ 各種調査結果を分析し、変容を把握する。
 - ・ 児童生徒の振り返りから変容を評価する。
 - ・ 児童生徒への学習アンケートを学期（前期・後期）末に行い、変容を把握する。

児童生徒に身に付けさせたい資質・能力を振り返る視点とするなど、検証方法を明確に設定し、校内研修の成果と課題を明らかにします。

9 年間計画等

PDCAサイクルに基づき、実施時期や役割分担などを決定し、記述する。

分掌間で連携して計画的・実践的な計画を立て、全教職員で共通理解を図って取り組みます。また、計画の中に一般研修の内容を併せて記載し、研修の全体像が見えるようにすることもあります。

⑤スクールソーシャルワーカー派遣申請書

(様式1)

〇〇〇第 号
令和 年 月 日

下北教育事務所長 殿

〇〇〇教育委員会教育長
(公 印 省 略)

スクールソーシャルワーカー派遣申請書

下記のとおり、スクールソーシャルワーカーの派遣を受けたいので、申請します

記

1 派遣日時
令和 年 月 日 () 時 分 ~ 時 分

2 派遣校
〇〇立〇〇〇学校
電話番号 〇〇〇〇—〇〇—〇〇〇〇
担当職・氏名 〇〇〇 ・ 〇〇 〇〇

3 申請理由

申請理由記入欄には、申請する概要や対象となる児童生徒数、家庭数等を記入する。

4 派遣内容
ア 問題を抱える児童生徒が置かれた環境への働きかけ
イ 関係機関等とのネットワーク構築、連携、連絡調整
ウ 学校内におけるチーム体制の構築、支援
エ 保護者、教職員等に対する支援・相談・情報提供
オ 教職員への研修活動
カ その他 ()

※該当する記号を○で囲み、必要事項を記入してください。

⑥「特別支援教育巡回相談制度」に係る各様式

特別支援教育巡回相談要請書(様式第1-1号)

(様式第1-1号①)

文 書 番 号
令和〇年〇月〇日

下北教育事務所長 殿

下北市立下北第一小学校
校長 釜 臥 太 郎
(公印省略)

特別支援教育巡回相談員の派遣要請について

このことについて、下記のとおり要請します。

記

1 期日 令和〇年〇月〇日 (金)

複数の児童生徒対象とできるのは、同一学級在籍時のみとする。

2 対象児童生徒

(在籍学級) (障がい種) (学年) (性別)

(1)	特別支援学級	自	4学年	男
(2)				

対象児童生徒数や相談内容に応じて十分な話合いの時間を確保する。

3 日程

教科等名を記入する。

(1)	13:45	～	13:55	日程等の確認
(2)	14:00	～	14:45	授業参観 (教科等:算数)
(3)	15:00	～	16:00	担任及び特別支援教育コーディネーターとの話合い
(4)	16:00	～	16:20	校長への報告
(5)				

4 巡回相談員所属校 〇〇〇立〇〇学校
職 氏名 教諭 〇〇 〇〇

巡回相談員から助言内容について報告を受けるための時間を設定する。校長が不在の場合は教頭が報告を受ける。

5 相談内容

- ・ 児童の学習のつまずきへの支援に関する助言 (算数の学習を中心に)

「下北の教育」p31の「3 (3) 相談内容(例)」を参考に、助言を受けたい内容を大まかに記入する。詳細については、「観察チェックシート」に記入する。なお、1回の訪問につき、特に困り感のある内容について1～2個に絞ることが望ましい。

6 校内支援体制の概要

- ・ 校内委員会において、個別の指導計画等を活用しながら指導の工夫について共通理解を図っている。

(様式第1-1号②)

教育委員会名以外は、様式第1-1号①に記入した内容が自動入力される。

文 書 番 号
令和〇年〇月〇日

〇〇〇教育委員会教育長 殿

下北市立下北第一小学校
校長 釜 臥 太 郎
(公印省略)

所管する市町村教育委員会名を記入する。

特別支援教育巡回相談員の派遣要請について

このことについて、下記のとおり要請しましたので報告します。

特別支援教育巡回相談フェイスシート(様式第1-2号)

※対象児童生徒1名につき1枚作成する。

(様式第1-2号)

特別支援教育巡回相談フェイスシート

(下北市立下北第一小学校)(氏名 海峡 花子)

※相談したい内容等について○を書きつけてください。

障害種	年齢段階	支援内容	合理的配慮の観点	
			学級担任等、相談者氏名を記入する。	合理的配慮の観点
視覚障害	乳児期	子どもの学習のつまずきに関する支援	○	①-1-1 学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮
聴覚障害	幼児期	子どもの行動上の問題に関する支援	○	①-2-1 学習内容の変更・調整
盲ろう	小学校期	子どもの美態把握に関する支援	○	①-2-1 情緒・コミュニケーション及び教材の配慮
肢体不自由	中学校期	子どもの進路や就労に関する支援		①-2-2 学習機会や体験の確保
病弱・身体虚弱	高校期	子どもの心理面に関する支援		①-2-3 心理面・健康面の配慮
言語障害	大学・成人期	学校システム・学級経営等に関する支援		②-1 専門性のある指導体制の整備
情緒障害	○			②-2 発症発を因るための配慮
知的障害		教材・教育支援機器に関する支援		②-3 災害時等の支援体制の整備
知的障害を伴う自閉症		医療・福祉等、他機関との連携に関する支援		③-1 校内環境のバリアフリー化
高機能自閉症 アスペルガー症候群		保護者との連携に関する支援	○	③-2 発達、障害の状態及び特性等に応じた指導ができる施設・設備の配慮
ADHD		その他()		③-3 災害時等への対応に必要な施設・設備の配慮
LD				
重複障害				
その他				

各項目(障がい種、年齢段階、支援内容、合理的配慮の観点)の当てはまる箇所○を付ける。

対象児童生徒の実態及び相談内容(助言を受けたい内容)等についての詳細は、別紙「観察チェックシート」に記入していただくため、ここへの記入は不要とする。

【備考】
 ※児童生徒の実態及び相談内容の詳細については、別紙「観察チェックシート」に御記入ください。

【その他】
 ※「観察チェックシート」に記載した内容以外で必要な伝達事項があれば御記入ください。

特筆する伝達事項があれば、記載する。ない場合は、空欄のままよい。

特別支援教育巡回相談「観察チェックシート」

※児童生徒1名につき1枚作成する。

別紙

※訪問日3週間前までに、「特別支援教育巡回相談員制度に係る様式」と併せて提出

「観察チェックシート」

本シートは、相談者の方に記入していただくものです。御協力お願いいたします。

1 作成の手順

- ①要請書に記載した「相談内容」の詳細について、文章で記入します。
※個人名（児童生徒氏名、教員氏名等）は記載しないよう御留意ください。
- ②児童生徒の実態について、各項目の当てはまる項目又はそれに近い項目にチェックを付けます。
※「□」をクリックすると、「✓」が表記されます。解除したいときは、もう一度クリックします。

2 本シートの活用

- ・相談者から巡回相談員に電話連絡をする際、本シートを手元に御用意いただき、「相談内容」に関連する項目を中心に、できるだけ詳しく巡回相談員にお伝えください。
- ・巡回相談員から「○番の項目について様子はどうですか？」などと質問がある場合もあります。

【相談内容】2(1)の児童

- ・児童のつまづきへの支援に関する助言（算数の学習を中心に）

要請書の「5 相談内容」の記載に合わせる。

①児童生徒の実態

- ・文字の読み書きや読むことについては、基本的なことはできるが、やや時間はかかる。
- ・算数の学習に苦手さがあり、計算は2年生レベルである。九九は時々間違えるが、ほぼ覚えている。2桁になると、四則計算に間違いが多くなり、特に繰り下がりのある引き算や割り算が苦手。
- ・学習したことがなかなか積み重ならず、本人の学習意欲が徐々に下がってきている。
- ・友達との関係は良好である。しかし、自分から話しかけることはあまりなく、会話は少ない。

②現在行っている支援内容

- ・具体物を使った学習活動の実施。
- ・授業の初めに体を動かし、集中力が続く10分程度を目安に短く一つ一つの活動を区切っている。

相談内容に関わることについて①～③に詳細を記入する。

③助言を受けたい内容の詳細（特に困り感のあることを中心に）

- ・現在小4だが、現在の当該学年の内容の学習では理解が困難なものが増えてきている。現在の指導についてさらに改善できる点について助言していただきたい。
- ・今後、さらに学習内容が難解になっていくが、本人の学習意欲を下げずに学習できるようにしたい。どのような環境を準備してあげる必要があるか、現状を見ていただいた上で助言いただきたい。

観察のポイント	児童生徒の様子
1 話す・聞く（口頭でのやり取り）	聞く：□言われていることを正しく理解できる ✓まあまあ □できない
	話す：□聞かれたことに的確に答えることができる ✓あまり的確に答えられない □答えられない ✓「普通、別に」等と答えることが多い □聞き返しが多い
2 読み（音読の流暢さ・読解力）	□すらすら読める ✓ゆっくりである □たどたどしい
	□長文の読解ができる □まあまあ ✓苦手
3 書く（文字の大きさ、バランス、筆圧、形の正確さ、消し方等）	ひらがな：□正しく書ける □特殊音節「っ、しゃ、じょう等」の間違いあり ✓助詞の間違いあり □書けない
	カタカナ：✓正しく書ける □間違いあり □書けない
	漢字：□正しく書ける □形が微妙に違う間違いが多い ✓書けないものが多い □書けない
	板書をノートに写す：□問題なし ✓時間がかかる ✓書けない
4 計算（筆算、指の使用）	□四則計算ができる ✓できないものがある □できない □自分の力で筆算ができる □電卓を使うと計算できる ✓指を使うとできる □できない

児童生徒の様子について、当てはまる項目又は近い項目を選ぶ。いずれにも当てはまらない場合は、空欄で構わない。

5 文章問題	<input type="checkbox"/> 得意 <input checked="" type="checkbox"/> 苦手
6 作文（長さ、テーマ、文法、展開等）	<input type="checkbox"/> 文章を書くことができる <input checked="" type="checkbox"/> 文章を書くことができない (<input checked="" type="checkbox"/> 主述が一致しない <input type="checkbox"/> 一つの文が長い 等)
7 手先の動き（鉛筆の持ち方・定規やコンパス・はさみ・器等の扱い）	<input type="checkbox"/> 道具を上手に使える <input checked="" type="checkbox"/> 道具を上手に使うことができない
8 姿勢の正しさと持続	<input type="checkbox"/> 正しい姿勢を持続できる <input checked="" type="checkbox"/> 正しい姿勢を持続できない
9 全身の動きのスムーズさ	<input checked="" type="checkbox"/> ぎこちなさがある <input type="checkbox"/> ぎこちなさはない
10 運動技術（球技、マット運動、跳び箱、鉄棒、投げる、とる、蹴るなど）	<input type="checkbox"/> 習得できる <input checked="" type="checkbox"/> 一部の技術が習得しにくい <input type="checkbox"/> 全般的に習得しにくい
11 持ち物や提出物の管理	<input type="checkbox"/> 学習用具をよくなくす <input checked="" type="checkbox"/> 提出物（手紙や申込み書など）は期限までに持ってくる <input type="checkbox"/> 提出物を期限までに持ってこないことが多い <input type="checkbox"/> 宿題を期限までに提出できる <input checked="" type="checkbox"/> 宿題をたまにやってこない <input type="checkbox"/> 宿題は提出できないことが多い
12 落ち着き	<input type="checkbox"/> 落ち着いている <input checked="" type="checkbox"/> 落ち着かないことが多い <input type="checkbox"/> 落ち着かなくてコントロールが難しい
13 整理整頓（ロッカー机の中、机の上の状態）	<input checked="" type="checkbox"/> よく整理できている <input type="checkbox"/> ぐちゃぐちゃなことが多い
14 指示や内容の理解	<input type="checkbox"/> 指示を聞いて行動できる <input checked="" type="checkbox"/> 指示したことの理解が難しい
15 忘れ物	<input type="checkbox"/> よくある <input type="checkbox"/> 時々ある <input checked="" type="checkbox"/> ほとんどない
16 教師の働きかけに対する反応、こどもから教師への働きかけの内容や様子	<input type="checkbox"/> 教師の働きかけに反応できる <input checked="" type="checkbox"/> 少し反応がある <input type="checkbox"/> ほとんどない <input type="checkbox"/> 反応がない <input type="checkbox"/> こどもから教師への働きかけがある <input type="checkbox"/> 働きかけが少しある <input checked="" type="checkbox"/> ほとんどない
17 友達に対する反応の内容や適切さ	<input checked="" type="checkbox"/> 友達と話すことができる <input type="checkbox"/> 友達の言動に敏感に反応する <input type="checkbox"/> 友達の言動に無反応である
18 友達とのやりとりや協力の様子	<input type="checkbox"/> 友達と協力できる <input checked="" type="checkbox"/> 友達に指示されたことができる <input type="checkbox"/> 協力できずトラブルになる
19 絵（内容、テーマ、構成、色彩、丁寧さ）	<input checked="" type="checkbox"/> 得意 <input type="checkbox"/> 苦手
20 身だしなみ (洋服の着方、靴、靴下の履き方、髪型、名札の付け方)	<input checked="" type="checkbox"/> 身だしなみが整っている <input type="checkbox"/> 整っていない <input checked="" type="checkbox"/> 自分で衣服の着脱ができる <input type="checkbox"/> 自分で衣服の着脱ができない
21 注目の向け方、持続の程度 (話している人に注目したり、集中し続けたりすることができるか)	<input type="checkbox"/> 話している人の方に注目している <input checked="" type="checkbox"/> 注目できないことが多い <input type="checkbox"/> 集中できる <input checked="" type="checkbox"/> 集中できる時間が短い <input type="checkbox"/> 集中できない
22 作業の速さ	朝や帰りの準備、学習の準備や片づけ、給食を食べる、着替えや図工などの作業が、 <input checked="" type="checkbox"/> まわりと同じようなペースでできる <input type="checkbox"/> できない <input type="checkbox"/> 作業が時間内に終わる <input checked="" type="checkbox"/> 時間内に終わらない <input type="checkbox"/> 急がせるとケアレスミスが多くなる

⑦個別の教育支援計画

※青森県教育支援ファイル（「個別の教育支援計画」及び「個別の指導計画」）作成の手引き 改訂版より引用

こちらは参考様式です。現在使用している様式等、各学校や地域の実情に応じた様式により、必要な個別の教育支援計画の作成・活用をお願いします。

作成日	平成〇〇年〇月〇〇日
評価日	平成〇〇年〇月〇〇日

個別の教育支援計画

【 学校】

本人氏名	性別	生年月日	
保護者氏名	学年・組		
住所	(TEL)		
生活の様子	得意なこと 好きなこと	<input type="checkbox"/> 本人、保護者からの聞き取り、関係機関の情報、教員の見取り等により、以下の内容を把握します。 ・ 学校生活 ・ 家庭生活 ・ 地域生活	
	苦手なこと		
本人・保護者の願い	本人	<input type="checkbox"/> 本人、保護者からの聞き取り等で把握します。 <input type="checkbox"/> 希望する進路や将来像についても把握します。	
	保護者		
合理的配慮	<input type="checkbox"/> 合理的配慮の3観点11項目の中から本人及び保護者と合意形成を図った項目を記入します。 <input type="checkbox"/> 各項目の見出しは、例えば、「①-1-1 学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮」と記入します。 <input type="checkbox"/> 具体的な内容は、「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）」の別表（本冊子の資料として掲載）を参考に記入します。		
長期目標 (期間：年)	<input type="checkbox"/> 評価の時期（1～3年を目安に） は学校として適切に定めておき、 評価日までに達成可能な目標 を記入します。		
関係機関との連携	<input type="checkbox"/> 関係機関名と支援内容を記入します。（担当：回数、支援内容） ・ 福祉、医療（受診、服薬、診断名等）、労働等との連携がある場合は記入します。 ・ 通級による指導、地域とのかかわり（習い事、放課後活動）も含まれます。		
作成者	学級担任：	特別支援教育コーディネーター：	

平成 年 月 日 保護者氏名



⑧個別の指導計画

※青森県教育支援ファイル（「個別の教育支援計画」及び「個別の指導計画」）作成の手引き 改訂版より引用

こちらは参考様式です。自校の児童生徒の実態、各教科や自立活動等の特質を踏まえて、指導上最も効果が上がるように工夫して作成することが大切です。

作成日	平成〇〇年〇月〇〇日
評価日	平成〇〇年〇月〇〇日

個別の指導計画 【 学校】

学年・組		ふりがな 本人氏名	
学校生活の様子	うまくいっているところ	○指導の有効な手がかりになるため、多く記述するようにします。 ・できていること ・頑張っていること ・得意なこと ・興味や関心	
	つまづいているところ		
短期目標 (期間：)	○指導期間をあらかじめ決定しておき、 <u>評価日までに達成可能な指導目標</u> を設定します。 (例：1年ごと、学期ごと) ○「～しないようにする」等の表現は避け、「～できる」という文末にします。		
手立て	○「短期目標」に対応した手立てを記述します。 ○「学校生活の様子」の「うまくいっているところ」を活用して指導の手立てを設定します。 ・補助教材の活用 ・言葉かけの工夫 ・活動量の調整 ・時間の調整 等が考えられます。 ○誰がどの時間や場所で指導するのも考えて手立てを設定します。		
評価	○評価の時期は学校として適切に定めておきます。 ○「短期目標」の達成状況について記入し、 <u>「指導目標」や「手立て」を見直</u> します。		
作成者	学級担任：		特別支援教育コーディネーター：